

青森市匠の職人（平成26年度受賞）

村上 あさ子（織布工）

古い布に新たな命を吹き込み折り続ける



主な受賞歴

- '03年 2003 あおもり伝統工芸クラフト展 デザイン賞
- '04年 2004 あおもり伝統工芸クラフト展 金賞
- '06年 青森県伝統工芸士認定
- '14年 INTERNATIONAL DESIGN COMPETITION "MUJIAWARD 04" in CHINA 入選

問い合わせ先

テキスタイルスタジオ村上
〒030-0151
青森市大字高田字朝日山 809-256
TEL・FAX 017-739-7761



2003 あおもり伝統工芸クラフト展でデザイン賞を受賞した『SAKURIカード』

色合いや柄、ひとつとして同じものはない小物入れ



【取材レポート】
漁師の仕事着として古くから使用されてきた「津軽裂織」は、コム合羽の出現により着る人も織る人も減少し、県立郷土館に昔の民俗の一つとして展示されていました。そんな津軽裂織に出会い、県伝統工芸品として、現代に復興させた村上さん。
藍色の作業着を見て、自分でも織ってみたいと思い、昔の人が織った裂織の生地を見せてもらいながら、織り方を研究し、創作を続けてきました。
伝統を踏襲しつつ、現在の生活様式に溶け込める作品づくりを心掛けており、平成26年4月には、国際デザインコンペにおいて、青森市出身の若手デザイナーと共同で制作したネクタイが入選するなど、その懐かしさと優しさが融合した作品は、多くの人を魅了しています。
「今後は、若い人と組んで新商品を開発しながら、若い人の育成事業もやっていきたい。あと、津軽裂織の教科書も作成したいですね。本があると一旦途切れても復活できる。一から掘り起こすってすごく大変なんですよ。」と語ります。
工芸界のフロンティアナーは、裂織教室を主宰し、制作者の育成を行いながら、古い布に命を吹き込み、新しい作品を作り続けます。